

美作国創生公募提案事業 事業成果報告書

1 事業名：世界へ発信！エンターテインメントMIMASAKA

2 実施団体：認定NPO法人英田上山棚田団

3 協働担当課：地域政策部 地域づくり推進課

4 事業概要

「上山の活動×美作地域の観光資源」を世界へ届ける情報発信プラットフォーム等の基盤整備

1. 地域をまたいだ情報発信プラットフォーム(多言語対応)の作成

2. 土産物づくりと情報発信

5 実施内容

1. 地域をまたいだ情報発信プラットフォーム(多言語対応)の作成

上山から発信する美作国の旅×体験”ヒト“が”どんな”想い“を持って取り組んでいるか”をしっかりと紹介し、一度だけでは満足できないディープな体験を厳選しました。

例えば、「藍染体験」一般的に何かしら布を染めて出来上がった製品を持ち帰る体験であるのが主流。TABiTOの体験では、藍を植えるところから始まります。藍を植えて育てて摘む。摘みたての藍を食し、生葉で布を染める。季節によっては他では経験できない体験が出来ます。また、なぜそういったディープな体験を始めたか。各体験実施者へのインタビューも載せ、「ヒト」への興味も持っていただけるよう構成しています。

「体験」だけを紹介するサイトは既に多くありますが、単発での体験の紹介で終わるのではなく背景やストーリーなど一連を紹介し何度も来てみたくなるような体験を厳選して載せています。

体験の中には「宿泊体験」も追加し、雲海温泉のバンガローやキャンプ場、民泊施設など個性的な施設を紹介。海外からの旅行者が安価で気軽に宿泊できる施設を意識して掲載しています。

またお土産ページは紹介だけでなく、ネットショップのリンクを貼って気に入ったものを再購入できるようにしています。

予定していた台湾語のページは先方のスケジュールが2月以降しか空かず来日の調整をはかっていたところ新型コロナの影響もあり今回のタイミングでは見送りとなりました。次年度以降、状況を見て台湾語ページは追加したいと考えています。

	
<p>Topページ サイトコンセプトの紹介と紹介範囲の地図</p>	<p>各体験ページのリンク それぞれの写真をクリックして内容紹介ページへ</p>
	
<p>実施者の紹介ページ なぜこの地で、なぜこの取り組みを始めたか。などそれぞれの実施者のバックボーンを紹介しながら体験への想いを膨らませてもらえるようなインタビューページです。</p>	<p>お土産ページ TABiTOセレクトの逸品を紹介するページ。現地でお土産として購入したものを再度購入できるようネットショップへリンクを貼って購買を促します。逆に商品を先に購入した方が現地に興味を持っていただき来訪頂けるよう逸品のちらしなどにもTABiTOのURLを貼る。</p>

2. 土産物づくりと情報発信

土地の魅力を伝える土産物づくりとSNSに頼らない対面式でのPRを進めました。土産物づくりについては、様々な方からのアドバイスを頂き「上山ならではの」と言えるストーリー性のある商品開発を心掛けました。

中心ワードとなるのは「棚田」「移住者」「昔ながらの技術」の3つ。懐かしいけど新しい。ちょっと手に取ってみたい。里山再生を応援したい。など見る人に様々な動機づけを与えられるような商品が出来上がりました。

今回の商品開発で意識したのが上山の移住者の商品だけでなく上山以外の他者とのコラボレーションによって影響範囲を広げること。

その意図に協力いただいたのが、神奈川県葉山で米麴甘酒をビーガンアイスにして里山再生を支援している「[BEAT ICE](#)」。全国味噌鑑評会で会長賞を受賞している美作市の「[高見味噌店](#)」の2つです。棚田再生に理解が深く商品開発にも大変に協力してくださいました。そこで生まれたのが「上山アイス」と「上山麴シリーズ」。棚田再生のストーリーを絡めて売り出すことが出来る健康によい商品群となりました。

また店内やネットショップに並べる際に移住者それぞれの商品を【今治タオル】ブランドのように付加価値を上げるために【UEYAMA IPPIN】ブランドを立ち上げました。制作は各自で行うものの、上山で生まれた製品ということを外へPRする際のインパクトを高めるための施策です。試しに井上・小磯が作る手仕事屋manomanoの木工製品および藁細工で改めて上山にまつわる商品開発を行いパッケージも【UEYAMA IPPIN】にそろえました。麴シリーズなどとも相性が良い、棚田再生ストーリーに溶け込み「上山ならでは」と言える商品に仕立てることが出来ました。今後、上山で生まれる商品は移住者だけでなく地元の方にも声をかけて【UEYAMA IPPIN】として都市部にPR出来るよう進めていきます。

	
<p>棚田米で作った甘酒から作られた上山アイス 乳製品不使用なのでアレルギーのあるお子さんでも食べられる優しいアイス</p>	<p>棚田米から作った麴を元に開発した「麴シリーズ」小さい50g瓶は3個セットでお土産物として最適なお試しサイズ。日常使いには200mlの使いやすいパウチを用意。</p>
 <p>岡山県美作市にある人口 170 人の小さな集落、「上山地区」。棚田を再生させ、農業、林業、酒造りなどにも取り組みながら、電気自動車（モビリティ）を活用する。現在の知恵も積極的に取り入れながら、本来日本に存在した古き良き生活様式を再考・再生し、新しい生活様式として更新・維持していく。そんなボーンダレスでオルタナティブな、新しい中山間地域での暮らしを実践する多種多様な生産者たちが、暮らしのサイクルの中で自然と生み出してきた、上山の生産物たち。それが「上山逸品」です。</p>	
<p>上山で暮らす人が生み出す製品に付ける統一ブランド「UEYAMA IPPIN」パッケージもある程度統一感を出して店舗やイベントブースに並べた時に人目を惹く演出が出来るように。</p>	<p>棚田米の藁細工と美作材の木工製品 各作り手のブランドロゴを表に、「UEYAMA IPPIN」のロゴを裏に配置して統一感を演出。</p>

情報発信のためのイベント出店の様子



東京 米友達



東京 エコプロダクツ2019



美作盆梅展



京都 間MA 藁イベント



大阪 無心庵イベント

6 事業実施による成果、効果、今後の課題

(1) 成果、効果

1. 地域をまたいだ情報発信プラットフォーム(多言語対応)の作成

他に類を見ない深い体験を紹介するプラットフォームが生まれたこと自体成果とも言えますが、何より今回プラットフォーム制作に協力いただいた上山以外の関係者とのやり取りの中で独自性のある観光プランが生まれてきたことが大きな成果であったと思います。例えば、梶並地区の蔵サウナと上山のキャンプ場で行っているサウナキャンプを組み合わせることで全国のサウナー(サウナ愛好者)向けの企画を立てよう。だとか、岡山県北の若者の能力開発のためにインフルエンサー養成を行おうとしているウェブおかやまさんと協働してモニターツアーを行おう。など。上山内だけでは成し遂げられない企画が生まれました。実際のツアー実施は次年度以降となりますが、今後も今回頂いたご縁を活かした新しい体験コンテンツを生み続けるきっかけとなりました。

2. 土産物づくりと情報発信

棚田再生ストーリーから繋がる製品群を生み出すことが出来ました。

【新規開発商品】

- ① 棚田米で作った甘酒を使った上山アイス
- ② 麴シリーズ(甘酒・塩麴・醤油麴・辛麴)
- ③ 棚田米の藁から生まれた藁細工
 - ・みごぼうき
 - ・鍋敷き
 - ・鍋敷き梅結び(美作市の木が梅なので)
 - ・締め飾り
- ④ 美作ヒノキを使った木工製品
 - ・しゃもじ
 - ・スパチュラ
 - ・おたま

また棚田米おむすびや上山野菜を活かした豚汁などをイベント先で提供できるキッチンカーも移動型飲食業営業許可を取り各地でPR出来る体制が整いました。

PRイベントについては、3月に予定していた2か所でのイベントはコロナの影響で中止となりましたが、計5回(東京、大阪、京都、岡山)にて開催することが出来ました。そのイベントを通して、東京・京都に上山の商品を卸す先が決まりました。また、美作市からもふるさと納税返礼品に出品してほしいと依頼を頂き登録を進める予定です。

(2) 今後の課題

1. 地域をまたいだ情報発信プラットフォーム(多言語対応)の作成

「ディープな体験」をテーマにしたところ一つの取材にかなり時間と費用が掛かり地域を広げることが難しくなりました。掲載する対象地域を広げるためにすでにあるサイトのリンクを多用するなど工夫が必要ということで、県民局からのアドバイスにもあった美作国観光連盟に連絡を取り相互リンクの相談を進めています。また、一方的な紹介記事だけだと来訪者側からのイメージが付きにくいので次年度はモニターツアーを行いその体験を記事にUPする予定です。

2. 土産物づくりと情報発信

イベント出店を重ねたところ、新規開発した商品のより詳細な使い方を求める声が多く食品に関してはレシピ集や製品に関しては手入れの方法や歴史などが分かるリーフレットなどがあると土産として購入を検討する方に売りやすいと感じました。次年度ではリーフレットを作成し、イベント用に利用するだけでなく卸先の開拓にも利用したいと考えています。また今年度のタイミングでは外国からの来日客に新規商品を見てもらうチャンスが無かったので世情が落ち着いたなら外国人が多く集まるイベントに出店し反応を見たいと思います。

7 県民局と協働した効果及び課題

プレゼンや中間報告時に頂いたアドバイスが有難かったです。今回はコンセプト作りなど一からサイトや土産物づくりを行うところから始めたので企画段階で時間も経費も多く費やしたのでなかなかアドバイス通りに進めることが難しかったのが反省点です。ただ、納得がいく土台を作る事が出来たので今後は頂いたアドバイスを活かし進めることが出来ると考えています。